

フードテック官民協議会第2回提案・報告会 議事概要

日時：令和3年3月16日（火）14時00分～16時00分

出席者：食品企業、ベンチャー企業、研究機関、関係省庁等関係者（291名）

議事：（1）作業部会（WT）、コミュニティサークル（CC）の活動報告（①細胞農業 CC、②2050年の食卓の姿 WT、③新興技術ガバナンス WT、④スマート育種産業化 WT、⑤SPACE FOOD WT、⑥細胞農業 WT、⑦昆虫ビジネス研究開発 WT、⑧ヘルス・フードテック WT）
（2）新規 WT 設立の提案（Plant Based Food 普及推進 WT）

議事について、各 WT・CC の事務局から資料に沿って説明。主な質疑応答は以下のとおり。

【質疑応答部分】

- 各 WT の実際の議論や意見についても教えてほしい。
→ WT の内容を官民協議会会員にも可能な範囲で共有する予定。（2050年の食卓の姿 WT 事務局）
- Plant Based Food 普及推進 WT について、WT の事務局である Plant Based Lifestyle Lab (P-LAB) で認証の策定などをすると聞いたが、本 WT ではどのような活動をするのか。
→ (PBF 普及推進 WT) P-LAB では認証制度ありきで議論するのではなく、植物肉に限らない植物性食品全般を対象として活動し、植物性食品に関する認知度向上の取り組みや、食と健康に関する意識調査を進める。排他的な形の認証制度ではなく、ユーザーとのコミュニケーションを取りつつ、分かりやすい表示等について検討できればと思う。
PBF 普及推進 WT の活動は、生活者が日々の生活においてサステナブルな選択ができるよう、その行動変容を促す施策について、フードバリューチェーン上のステークホルダー全員で多角的な観点から検討する。
(Plant Based Food 普及推進 WT 事務局)
- Plant Based Food 普及推進 WT について、活動内容はメンバーから提案を募るということだが、品質の改善、消費者受容性の向上や環境配慮のアピールなど、多角的に扱うということか。
→ 然り。植物性食品のニーズをユーザーとの対話を通じて探り、普及させていきたい。また、有識者の話も聞きつつ、課題を自分ごと化して理解したうえで議論したい。（PBF 普及推進 WT 事務局）
- ヘルス・フードテック WT について、食薬区分の線引き、調整について、具体的にはどう考えているか。
→ 現在、健康増進法、食品表示法に基づいて、食品に、「健康に役立つ」など健常者向けの表示ができるようになっている。今後は疾病予防や症状軽減ができるなどといった、より踏み込んだ表示が可能なルールができるといいと考えている。（ヘルス・フードテック WT 事務局）

以上